

平成30年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- ① 生徒が理解できた喜びを感じる授業、達成感のある授業を目指し、指導法の工夫改善に努める。校内研修の充実を図る。
- ② 生徒の学習活動が円滑に進むように生徒の実態に合わせたガイダンス機能の充実を図る。
- ③ 心のケアを組織として確立し、生徒が満足感のある学校生活を送ることが出来るよう支援する。
- ④ ガイダンス機能を活かした進路指導の充実を図り、進路決定率を上げる。
- ⑤ 生徒会活動や地域貢献の活性化に努め自己有用感の醸成を図る。
- ⑥ あいさつ・ボランティア活動などを励行し、自らの行動が生きやすい社会作りを担っている経験を通して、自主的に社会に貢献する態度を育成する。
- ⑦ 地域に開かれた学校を目指し、広報活動の推進を図り、保護者や中学校への情報提供、ホームページの改善に努める。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教務	① 生徒の単位修得率を向上させ、目標とした年限で卒業できるよう、みやぎ学力状況調査やアンケート調査をもとに、生徒の実態を正確に把握し、指導の手立てを検討する。	B	宮城県教務支援システムを利用して、年間の出欠や成績に関する業務のよりよいあり方を模索し、生徒指導のための効率のよい情報収集にしていきたい。	B	B
	② 家庭学習の習慣を身につけさせ、学力の向上を図るための手立てを検討する。	B	各教科における基礎基本の定着を図るための取組とH-1グランプリとのリンクなどの工夫により出席率の向上、学習習慣の定着、学力向上につなげたい。	B	
	③ 研究授業や研修会を開催し、教職員の資質向上を図る。	B	年5回の公開授業の活性化を図っていきたい。	B	
	④ 教務内規の改善に努める。	B	一昨年度までの教務内規の変更により、生徒の出席率が向上し、成績上位者が増加し、欠点保持者が減少したが、今後は停滞している。今後も必要に応じて修正を加えたい。	B	
	⑤ 三部制・単位制のシステムと宮城県の教務支援システムの連携を図る。	A	宮城県教務支援システムを利用して、年間の出欠や成績に関する業務のよりよいあり方を模索し、生徒指導のための効率のよい情報収集にしていきたい。	A	
学校関係者評価委員会における意見	生徒の実態や学習の到達度に応じた指導内容や方法を工夫し、生徒の学力向上によく取り組んでいる。				
生徒指導	① 「自己選択・自己決定・自己責任」をキーワードにパーソナルボックスや情報テレビの活用、またSHRの効果的な活用により、個々の生徒に即した自主性の涵養を目指す。	B	パーソナルボックスや情報テレビ等について、入学予定者説明会や入学式、HRを活用して生徒と保護者に趣旨について十分説明する。また教職員に対して活用方法について周知する機会を設ける。	B	B
	② 年間を通じたSST活動によるスキルトレーニングを活用して、円滑な人間関係を構築できる能力を育む。	B	全教員を対象に年度始めにSST活動に関する研修を設けて、趣旨と指導内容等について周知した。次年度もより効果を上げるために研修内容の工夫と改善を行い継続していく。	B	
	③ LHR及び各種行事、生徒会活動や部活動、ボランティア活動が円滑に実施できるよう支援することによって社会に貢献していくための考察力や思考力、表現力を伸ばす。	B	生徒会予算を見直して部活動費の柔軟な支出を可能にして活動が活性化された。また、活動時間の確保するために時程の改善を行うことができ、次年度から実施することになった。地域におけるボランティア活動の依頼に対しては、その都度対応していきたい。	B	
学校関係者評価委員会における意見	三部制・単位制の高校ということから、3つの部にわたる生徒が一堂に会しての生徒会活動や部活動等の活動時間の設定や十分な時間の確保が難しい課題と思われる。その難しい状況の下、教職員や生徒は十分に対応していると考える。				
進路指導	① 『総合的な学習の時間』で行われる各種プログラムやテスト「進路講話」「進路別ガイダンス」等を利用して進路意識の啓発を図る。	B	進路行事を通して生徒に就職・進学ともに様々な可能性を提示していく。同時に保護者向け進路説明会の更なる充実を図りながら保護者を巻き込んだ進路指導体制の整備を目指す。	B	B
	② 進路指導部による小論文指導・面接指導等、個別指導を早期に実施し、具体的な進路目標の設定に向けた取り組みを強化する。	B	進路指導部会を毎週定期的に開催することによって、生徒の情報交換を密にし、適切な面接指導や個別指導を行う。	A	
	③ 進路目標達成とその定着に向けた『職場訪問』や『就業体験』の在り方を検討・実施する。	B	連携コーディネーターを活用し、地元企業の情報収集に努めるとともに、卒業生の就労定着を図る。	B	
	④ 様々な点で『就職』に困難性が認められる生徒を支援し、就労できるよう指導する体制を整えていく。	B	外部の就職支援団体と連携し、支援の必要な生徒が社会に踏み出すためのサポート体制を充実させる。	B	
学校関係者評価委員会における意見	大学生でも働くことや就職について意識が低い中で、働くことの意義を理解させ就労に向けた前向きな活動につなげることは難しい状況である。今後も地道なキャリア教育に取り組んで欲しい。				

ガイダンス	① 生徒が卒業に向け進路目標を達成できるよう、機能的な教育課程の編成に努める。	A	教育課程に関するシステムについて、教職員の共通理解をさらに深めるよう必要に応じて継続的に教員向けガイダンスを充実させる。	A	A
	② 魅力ある単位制高校づくりを推進しつつ、本校のPRに努める。学校説明会を実施し中学3年生だけでなく高校を中途退学した地域の生徒や社会人にも門戸を開放すべく努力する。	B	中学3年生や中途退学者、本校を取り巻く地域の方々に広く本校について理解してもらうためにオープンキャンパスや学校説明会での情報発信に努める。	B	
学校関係者評価委員会における意見	様々な生活背景や個人の特性を持つ生徒の皆さんを一人一人見て育てて行こうと取り組んでいられる姿に、いつもながら頭が下がります。どうか継続して下さい。				
保健厚生	① 生徒が自ら地域貢献に取り組んだり校内外の環境整備等に意欲的に取り組めるように意識の高揚を図る。	A	昨年実施できなかった地域奉仕活動を今年度は清掃区域を拡大して実施することができた。校内の清掃については、生徒数の減少や活動を行うことで、生徒の環境美化の意識の向上が図られた。	A	A
	② 特別支援が必要な生徒・保護者に対応できるように職員の知識・技術等の研修会を実施し、カウンセリングマインドのスキルアップを図る。	A	SCやSSWと特別支援教育コーディネーター及び担任がケース会を行い生徒の実態把握や適切な支援のあり方について、資質や能力の向上が図られた。	A	
	③ 主体的・意欲的に学校生活を送ることができるように、カウンセリングを必要としている生徒の観察を行う。	A	特別支援教育コーディネーターが保健厚生部に所属することにより教員間で生徒の情報共有が進められた。	A	
	④ 災害時における生徒のケアについて、支援を行う。	A	生徒に対して相談しやすい保健室の雰囲気づくりに努め、生徒の些細な変化の把握に役立った。また生徒の相談に乗り、不安の解消や前向きな意欲の向上につなげることができた。	A	
	⑤ 補食のあり方を検討する。	B	Ⅲ部対象の補食は、在校生の減少により5年実施できていない。	B	
学校関係者評価委員会における意見	特になし				
総務	① 保護者に対し学校便りを通して、常に新しい情報を提供するとともに、本校のPR活動に努める。	A	外部機関へのPR活動や生徒・保護者に対するタイムリーな情報提供については、年4回発行の「学校だより」やHP等で実施している。また、HPについては今年度より県の方針ではほぼ統一した形となり、シンプルかつ見やすく改善されている。	A	A
	② ホームページを活用し、関係者に生きた情報を提供する。	A	”地域や伝統に根ざした”という意味ではまだまだ改善の余地はあるが、毎年、地域清掃奉仕活動を行ったり、昨年7月には東松島市議会との懇談会を企画していただき、「市議会広報委」と「本校生徒会役員」との初の懇談会を実施し、まちづくり、地域の将来像について語り合ったりと、地道にコツコツと活動している。	A	
	③ 学校防災マニュアルの改善を図るとともに、防災教育の充実に努める。	A	今年度もJアラートへの対応を含めた避難訓練を実施することができた。地域の防災主任担当者連絡会議に出席し情報を交換するとともに、東松島市指定の避難所として設備備品の管理を行った。	A	
学校関係者評価委員会における意見	特になし				
事務部	① 迅速で正確な事務処理について「就学支援金制度」をはじめとした様々な制度の事務処理について、円滑で正確に対応するためより効果的な処理を目指していく。	B	就学支援制度については、事務担当及びSAの努力により保護者からの書類を適宜提出してもらえるよう周知や未提出生徒の保護者に働きかけをおこなった。今後も効果的に提出されるよう工夫していきたい。	B	B
	② 財源の有効活用と費用対効果の把握について、県からの予算令達を受け最小限で最大の効果が上がるように、経費節減を含めて取り組んでいく。	B	予算及び施設管理については、集中と選択により引き続き最小限にして最大の効果が上がるよう努力する。	B	
	③ 環境整備と保全について、施設整備5カ年計画の見直しを行いながら、執行にあたっては、授業状況等を考慮しながら計画的に施行していく。なお、施設の老朽化等の不具合については、安全確保の優先順位を考慮しながら予算請求に向けてしっかりと対応していく。	B	今年度も校舎等の点検を積極的に行い、老朽化等に伴う危険防止に向けて修繕等を行う事ができた。東棟の北側の雨漏れ対策や校舎北側雨漏れ補修工事など以前からの懸案事項に対しても着手し改善したが、新たに修理を要する亀裂が発生するなど老朽化問題の解消には、費用的側面を含めてまだ時間がかかる見込みである。	B	
学校関係者評価委員会における意見	特になし				

### 3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① キャリア教育及び就職支援の充実	外部講師を招聘した進路ガイダンスの改善及び充実を図り、生徒の進路目標の決定と実現に向けた取組への意欲の向上につなげる。進学希望者に対して模擬試験の受験を積極的に働きかける。また、保護者対象の進路説明会を早期に実施することで保護者の進路に関する理解の促進と協力が得られるようにする。外部の就職支援団体を活用して、個々の生徒の実態や進路目標に応じたより効果的な支援が行えるようにする。
② 教員の実践力の向上	教員の実践力（授業力、生徒指導力、子供理解、学校を支える力）を向上させるために生徒情報ミーティングの内容の改善を行うとともに校内の授業研究の充実を図る。また初任者研修を含めた専門研修を計画的に行う。生徒による授業評価を分析して課題の明確化と改善策の作成を行う。
③ 特別な支援を必要とする生徒への支援の充実	特別支援教育体制を整備するとともにケース会を開催し特別な支援を必要とする生徒の実態と生徒や保護者のニーズを把握し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携しながら適切な支援策を策定し実践していく。さらに教職員間で情報を共有するシステムを改善充実させ、学校生活においてすべての教職員が支援できる体制を整える。